

23-06-20

「サステナビリティボンド」を発行します ～環境と社会双方の課題解決に資する事業へ調達資金を充当～

名古屋鉄道は、環境と社会双方の課題解決に資する事業の資金調達のため、当社 2 回目となるサステナビリティボンド(以下、「本社債」)を 2023 年 7 月に発行します。

詳細は、下記のとおりです。

記

1. 背景

当社は、「地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する」という使命のもと、名鉄グループ長期ビジョン「VISION2030～未来への挑戦～」を策定し、同ビジョンに基づいた名鉄グループ中期経営計画「Turn-Over 2023 ～反転攻勢に向けて～」の着実な実行による、持続的な成長を目指しています。また、2022 年 4 月には、「環境保全への貢献」や「地域価値の向上」といった 5 つのサステナビリティを巡る重要課題(マテリアリティ)を特定しました。そのうち、「環境保全への貢献」に関連し、「気候関連財務情報化開示タスクフォース(TCFD)」提言への賛同を表明すると同時に、2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた目標設定を行っています。

このような取り組みを推進していくため、この度、サステナビリティボンドによる資金調達を決定しました。

2. 本社債の概要

名 称	名古屋鉄道株式会社第 68 回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)(サステナビリティボンド)
発行総額	100 億円(予定)
発行年限	5 年(予定)
発行時期	2023 年 7 月(予定)
資金使途	サステナビリティファイナンス・フレームワークで定めた適格クライテリアを満たす事業の新規ファイナンス資金またはリファイナンス資金 ① 通勤型車両 9500 系・9100 系の導入 ② 駅や保有施設の照明、鉄道信号機等の LED 化 ③ エッジデータセンターの建設 ④ 東岡崎駅再開発計画の推進 ⑤ 布袋駅における高架下開発 ⑥ エリア版 MaaS アプリ「CentX」機能強化
ストラクチャリング・エージェント※	大和証券株式会社

※ストラクチャリング・エージェントとは、サステナビリティファイナンス・フレームワークの策定やセカンドオピニオン等の外部評価の取得に関する助言等を通して、サステナビリティボンドの発行支援を行う者。

3. サステナビリティファイナンス・フレームワーク策定および外部評価の取得

当社は本社債の発行にあたり、国際資本市場協会 (ICMA) の定める「サステナビリティボンド・ガイドライン 2021」をはじめとする各原則に則したサステナビリティファイナンス・フレームワークを策定しました。また、本フレームワークについて、株式会社格付投資情報センター (以下、「R&I」) より、上述の各原則との適合性に対する外部評価 (セカンドオピニオン) を取得しています。

- サステナビリティファイナンス・フレームワーク

https://www.meitetsu.co.jp//ir/reference/sustainability_bond/230620sustainabilitybond-framework.pdf

- R&I による外部評価 (セカンドオピニオン)

https://www.meitetsu.co.jp//ir/reference/sustainability_bond/230620sustainabilitybond-secondopinion.pdf

4. 調達資金の使途

▶ グリーン適格プロジェクト

プロジェクト区分	適格プロジェクト	概要
クリーン輸送	① 通勤型車両 9500 系・9100 系の導入  9500 系車両	当該車両は省エネ機器として、VVVF インバーター制御装置に用いるパワー半導体にエネルギー損失の低い炭化ケイ素 (SiC) を採用するなど、先進的なテクノロジーを積極的に取り入れています。また、主電動機に全閉外扇誘導電動機を採用し、エネルギー効率のさらなる向上を図っています。
エネルギー効率	② 駅や保有施設の照明、鉄道信号機等の LED 化  LED 化した信号機	保有施設・設備の省エネ化を進めています。2022 年度は栄町駅など 5 駅の照明の LED 化を、また鉄道信号機については 90 基の LED 化を実施しました。引き続き更新などのタイミングに合わせて保有施設・設備の LED 化を進め、消費電力の低減を図ります。
	③ エッジデータセンターの建設  外観イメージ	当社グループのメイテツコムが運営するエッジデータセンターの建設を神宮前駅周辺で進めており、2024 年の供用開始を予定しています。空調設備等環境に配慮した設計で、pPUE※ (Partial Power Usage Effectiveness) 1.3 の環境性能を有する予定です。

※データセンターのモジュールやサーバー室単位など特定の部分のエネルギー効率を表す指標の一つ。1.0 に近いほど効率的とされる。

▶ ソーシャル適格プロジェクト

プロジェクト分類	適格プロジェクト	概要
<p>社会経済的向上とエンパワーメント</p> <p>※対象となる人々： 地域の住民および事業者（適格プロジェクト④⑤⑥）、国内外からの旅行者（適格プロジェクト④⑥）</p>	<p>④ 東岡崎駅再開発計画の推進</p>  <p>北口再開発ビル(イメージ)</p>  <p>南口ビル(イメージ)</p>	<p>東岡崎駅の北口および南口周辺の一体的な再開発を行います。岡崎市が主導するQURUWA 戦略と連携した、街へ開かれた施設計画を策定します。</p> <p>駅北口では新たな賑わいを創出する複合施設を整備するほか、交通結節点としての役割を強化し、本社債の資金使途となる駅南口の再開発では周辺居住者に選ばれるシンボルとなるような施設を目指します。駅施設を起点とした躍動的なリズム(人の流れ)を作り出し、地域の個性を引き立てていく予定です。</p>
	<p>⑤ 布袋駅における高架下の開発</p>  <p>高架下商業施設(イメージ)</p>	<p>布袋駅において、鉄道の高架化により生じた高架下の空間に木造商業施設を展開します。江南市による都市計画においても課題とされている布袋駅周辺の賑わいや交流空間を創出し、長く親しまれる施設を目指します。SAKUMACHI 商店街の開発に次ぐ高架下木造商業施設開発となります。</p>
	<p>⑥ エリア版 MaaS アプリ「CentX」機能強化</p>  <p>CentX アプリデザインロゴ</p>	<p>交通・生活・観光サービスをつなぎ、沿線・地域の活性化を推進する「エリア版 MaaS」の取り組みを進めています。2022年3月にはエリア版 MaaS アプリ「CentX」のサービスを開始しました。今後も事業者や自治体との連携を拡大し、「CentX」のさらなる機能強化を図っていきます。</p>

以上